



イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 624 回 さあ、投票に行こう！

2015.4.12

統一地方選挙のさなか、いかにもバカバカしい報道が繰り返されている。小泉元首相の表現を借りれば、最近の政治家の質の低下ぶりは「怒りを通り越して笑ってしまいたくなるほどあきれた状態」だ。問題の事件は、大阪維新の会。

例の“浪速のエリカ様”こと、上西小百合衆院議員を除籍、続いて維新の党も除名処分とした事件。その発端は本会議欠席とその前後の彼女の行動にあったようである。

今更その内容を書くつもりはないが、国会で最も重視されるのが本会議、とりわけ予算審議を可決する本会議には特別の意味がある事、彼女は認識できなかったようである。

時の総理大臣であった石橋湛山は、昭和 32 年度予算審議という重大案件の中で、最高責任者である首相が、病氣療養を理由に自ら国会に出席して答弁できない…との理由で辞任した。

ロッキード事件で渦中にいた田中角栄氏も、高齢まで衆院議員を務めた中曽根康弘氏も、そしてよく「俺は潜る」といって表舞台から姿を消していた小沢一郎氏も、これには欠かさずに出席していた。

大阪維新の会の橋下代表は、「(国会議員は給与が)2200 万円！これに 1200 万円の経費が入り、3000 万円以上の給与が(上西氏に)入る」と述べて、議員辞職を拒んだ上西氏を批判してみせた。

いくら橋下氏が年収の多さを批判しようとも、その原因を作ったのが大阪維新の会であり、橋下氏である事実は紛れもない。政治的能力を問わずして、目立ちがり屋の上西氏を国会議員に仕立てた張本人、他人事のような無責任批判には、開いた口が塞がらない。

橋下チルドレンともいえるような議員の辞職を指導しきれない点は、大いに問題があると思う。

その結果、橋下氏は大きな勘違いをしていること、ご存知なのか？

つまり、上西氏を除籍することで、さらに彼女に「利益」をもたらすことになることを見逃している。

無所属となった上西氏がもし一人会派を結成すれば、月々65 万円の立法事務費が支給されるのだ。これは年間で780 万円にのぼるため、上西氏には、合計で約4000 万円以上の国民の血税が流れ込むことになる。

橋本氏のおかげで、さらに多くの税金を彼女に支給することになるのだ。

政治を志す人、その神輿を担ぐ人、いとも安易に票を投じる人、どうも、限りない素人たちのコミックショーに見えてしかたがない。

「税金の無駄遣い」を堂々と演じる連中に、結果被害を受けるのは、常に善良なる小市民、健全たる有権者という図式が、一向に直らないでいる。

「政治は、万民のたれを判断基準とする王道を歩むべきで、権謀術数による覇道を排すべきだ」とは、かの坂本龍馬が師と仰ぐ幕末随一のプランナー、「横井小楠」の言葉である。

正に今、統一地方選挙の真ただ中、政治について正面から向き合う、絶好の機会である。

政治家が悪い…とはいかにも無責任、悪い政治家を選んだ有権者がいたことを忘れてはならない。市区町村の議会議員、都道府県議会議員、いずれもあなたの身近にいる候補者だ。将来に亘り、我々の住む地域を託する人を選ぶ貴重な一票であること、真摯に受け止めて頂きたいと思っている。さあ、投票へ行こう！！とお願いしつつ、ペンを置く。